

【A 会場】

夜間セッション（17：00～19：00）

「日本地球化学会の明るい未来を見据えて」

日本地球化学会将来計画委員会

1. 倫理規定の策定に向けて（10分）

益田 晴恵（大阪市立大学）

2. 法人化を終えて（代議員制の導入の検討）（10分）

板井 啓明（東京大学）

3. 国際対応について（10分）

横山 哲也（東京工業大学）

4. 出版事業について（30分）

鍵 裕之（東京大学） Geochemical Journal

小畑 元（東京大学） 地球化学

5. 科学研究費補助金（科研費）について（30分）

高橋 嘉夫（東京大学）

6. 総合討論 (30 分)

司会：鍵 裕之

日本地球化学会に限らず、学術団体を取り巻く昨今の環境変化は激しく、速い。今年の夜間セッションでは、学会の今後を見据え、特に喫緊に議論すべき5つの課題について取り上げ、本会員との意見交換を行いたいと考える。1つ目「倫理規定の策定に向けて」は、国内の学協会やゴールドシュミットでの取り組みを紹介するとともに、学会ではこの課題に取り組むタスクフォース(TF)を立ち上げる方針などについて示す。2つ目「法人化を終えて」は、法人化による学会運営の現状の報告、問題や今後の課題の整理を行うとともに、今後の動向の一つとして代議員制のメリットデメリットの紹介を行う。3つ目「国際対応について」は、国際対応TFメンバーの紹介とこのTFが担うミッション、具体的には、海外学会との連携や国際学会の受け入れの重要性の議論などを紹介する。4つ目「出版事業について」は、学会の出版事業を取り巻く状況(出版助成と財政負担)を説明し、今後どのように出版事業に取り組むかをGeochemical Journalと地球化学それぞれについて議論する。5つ目「科学研究

費補助金について」は、JpGU2018 セッション「地球科学の最前線：高度分析装置と地球惑星科学」での高橋幸弘氏（北海道大学）による招待講演（地球惑星科学における新しい構造の模索）の内容を基軸に、昨年度の科研費改訂の趣旨等を説明し、今年度の申請や採択の動向や、若手が科研費に申請する際のアドバイスを提供する予定である。どの課題についても活発な議論を期待する。